

GPA制度について

履修登録した成績の評定を秀、優、良、可、不可の5段階で行い、成績を平均化したG P A (Grade Point Average) を本学では全学的に導入している。

① 学習達成度の質的評価

総合的・数値的評価を取り入れることにより質的な面での評価を行いやすくし、学習意欲の向上と学習指導の適切さが期待される。

② 履修意志の明確化

中途半端な履修が減少することが予想される。

③ 質の高い学習奨励

質の高い学習へのインセンティブを与える。

④ 厳格かつ透明な成績評価

シラバスでの評価基準の明示、採点基準の公開、答案開示などにより、厳格かつ透明な評価が進むことが期待される。

GPAによって自分の学習効果を自分自身で把握できるメリットがある。GPA制度では、単位を取得できなかった不合格科目も成績に加算されるため、不合格科目が多いとそれだけGPAも低くなり、その意味で学生の勉学への意欲や取組み方がはっきりと表れる。

また、中途半端な受講をなくすための方策にもなる。学生は履修するかどうか、意志をはっきりと決定することが必要であり、そのために、履修科目訂正期間が設定されている。受講しない科目について、期間内に取消等の手続を行わない場合には、不合格の科目が発生し、G P Aの値も下がることとなる。

(指定された履修科目訂正期間を過ぎた場合、「怠けていて不可になりそうだから」という理由で履修を中止することは認められない。)

(1) GPAの対象となる授業科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がGPAの対象となる。

また、以下の科目は適用除外科目であり、GP (Grade Point) が付加されない。

1. 卒業単位に参入しない資格取得に関する科目 (学芸員に関する科目)
2. 本学の単位として認定された単位認定科目
2. 編入学または転入学した際の単位認定科目

(2) 成績評価の評定記号と付加するGP

成績評価は点数方式で行われ、以下の評定に応じたグレードポイント (GP) が付与される。

評価区分 (点数)	評定記号	評価内容	GP
100~95	秀	学習目標の内容をほぼ完全に理解し、 かつ応用する力がついていると認められる	4
94~80	優	学習目標の内容を十分に理解し、 修得したものと認められる	3
79~70	良	学習目標の根幹的な部分は理解し、 修得したものと認められる	2
69~60	可	学習目標の最低限の理解は得られたものと認められる	1
59~0	不可	学習目標の最低限の理解が得られていないと認められる または出席不足、試験放棄 等	0
—	認定		なし

(3) GPAの定義

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目について、それぞれの単位数にグレードポイント (GP=4・3・2・1・0 のいずれか) をかけ、その合計ポイントを、それぞれの単位数の総和で割った数値となっている。

例) GPA算出方法

科目名	単位数	評定	GP	
〇〇〇〇〇実習	2単位	秀	4	2単位×4=8
△△△△△演習	1単位	不可	0	1単位×0=0
◇◇◇◇◇実験	2単位	優	3	2単位×3=6
合計	5単位			14点

$GPA = GPの合計 \div 単位数の合計 = 14点 \div 5単位 = 2.8$

↑この単位数には不可 (不合格科目) の単位数も含む

(4) 利用方法

1. 成績優秀者等選考に利用している。
2. 累積GPAが1.5未満の学生に対しては、学部長等が個別指導等を行う。個別指導を行い、それでも学力不振が続いた場合には退学勧告がなされる。



